

# Pick up

竹村民郎・鈴木  
貞美編『関西モダ  
ニズム再考』(思  
文閣出版・892  
5円)

行われ、当時のニユースフ  
ィルムを見ると、洋装の女性が  
行きかう姿は東京・銀座より  
も大阪・心齋橋の方がはるか  
に多い。梶井基次郎が名作「樺  
中心にした学際的研究」をま  
とめたものだ。文芸、美術、  
建築、大衆文化、技術史、新  
劇運動など多彩な視点から各  
論を展開している。

大正から昭和初期にかけて  
阪神、阪急沿線を中心にモダ  
ニズム文化の花が開いた。デ  
パート、カフェ、ネオンサ  
インに代表される新しい都市

## 多彩な視点から 今日的意味探る

風俗が広がり、甲子園の野球  
や宝塚少女歌劇などの大衆娯  
楽も急速に人気を集めてい  
く。

った。

氏は、モダニズムをめぐるま  
まさまざまな流れを一つ一つ読み  
解きながら、モダニズムと日  
本的な伝統の絡み合い、さら  
には関西におけるモダニズム  
の今日的な意味を探ろうとし  
ている。

大阪は東京よりも鉄筋コン  
クリートのビルの建設が早く

この本は、このような東京  
とは異なる「関西モダニズム  
文化」をめぐる00年度から  
3年間、国際日本文化研究セ  
ンターで行われた共同研究  
「日本のモダニズム―関西を

【池田知隆】

日本のモダニストたちは、  
何をモダニズムと考え、自ら  
の「伝統」から何をくみ取る  
うとしていたの  
か。編者の鈴木